

未来を強くする子育てプロジェクト



第13回

「未来を強くする子育てプロジェクト」 のご紹介

「未来を強くする子育てプロジェクト」では、
「子育て支援活動の表彰」と「女性研究者への支援」の2つの公募事業を柱として、
すこやかな子育てと夢のある未来づくりを応援しています。

子育て支援活動の表彰

より良い子育て環境づくりに取り組む個人・団体を募集します。
各地域の参考になる特徴的な子育て支援活動を社会に広く紹介し、
他地域への普及を促すことで、子育て環境を整備し、
子育て不安を払拭することを目的としています。



女性研究者への支援

育児のため研究の継続が困難となっている女性研究者および、
育児を行いながら研究を続けている女性研究者が、研究環境や
生活環境を維持・継続するための助成金を支給します。
人文・社会科学分野における萌芽的な研究の発展に期待する助成です。



目次	「未来を強くする子育てプロジェクト」のご紹介	2
	ごあいさつ	3
	講評	4
	子育て支援活動の表彰	6
	女性研究者への支援	15

ごあいさつ

橋本 雅博

住友生命保険相互会社
取締役 代表執行役社長



住友生命では、保険事業の健全な運営とその発展を通じて、豊かで明るい長寿社会の実現に貢献したいとの想いから、「健康増進」「子育て支援」のテーマを重点分野として、社会貢献活動に積極的に取り組んでいます。

そのひとつである「子育て支援」事業の大きな柱が、「未来を強くする子育てプロジェクト」です。このプロジェクトは、住友生命の創業100周年記念事業として、2007年より開始し、今回で13回目を迎えました。

子育て支援に取り組まれている皆さまは、各地域や家庭におけるさまざまな課題に対して趣向を凝らした活動で向き合っておられ、より

良い子育て環境づくりを目指して懸命な取り組みを続けておられます。

また、女性研究者の皆さまは、子育てとの両立を行いながら、多様で意義深いテーマの研究に日々熱意を持って取り組んでおられます。

その姿は、これからの持続可能な未来を創っていく子どもたちに夢と希望を与えてくれています。私たちはこうした取り組みを広く世の中に発信し、社会全体で子どもを見守り育てていく環境づくりに向けた支援の輪が広がっていくことを願っています。住友生命は、これからも健康で心豊かな社会づくりに向けて、さまざまな活動に取り組んでまいります。

選考結果

第13回「未来を強くする子育てプロジェクト」では、2019年7月から9月までの間、「子育て支援活動の表彰」「女性研究者への支援」の2部門の募集をいたしました。「子育て支援活動の表彰」には220組、「女性研究者への支援」には125名のご応募をいただきました。選考委員による審査を経て各部門の受賞者が決定しました。

子育て支援活動の表彰 表彰数 **12** 組 応募数220組

- 文部科学大臣賞／スミセイ未来大賞の1組に授与
- 厚生労働大臣賞／スミセイ未来大賞の1組に授与
- スミセイ未来大賞／2組
- スミセイ未来賞／10組

女性研究者への支援 表彰数 **10** 名 応募数125名

- スミセイ女性研究者奨励賞／10名

講 評

「未来を強くする子育てプロジェクト」 選考委員



[選考委員長]

汐見 稔幸

東京大学名誉教授
日本保育学会会長

子育て支援活動の表彰には、活動を開始して間もない団体からも数多くご応募いただきました。これは時を重ねるなかで、支援の担い手のバトンが着実に次の世代へと受け継がれていること、そして取り組むべきテーマが徐々に変化しつつあることを意味します。子育てを取り巻く難題を解決すべく果敢に立ち上がる方々の姿は、日本の新たな可能性を象徴するものです。そうした勇氣ある挑戦を応援できる社会をつくっていくことが、新しい時代には強く求められています。

社会がグローバル化した現在、大胆かつ粘り強い研究姿勢なくして世界を解明することはできません。目先の成果にとらわれずに最初の一步を踏み出し、そこからたゆまず歩を進められる研究者は女性に多いように感じています。今回受賞された女性研究者の皆さんには、困難に負けない強い意思と旺盛なチャレンジ精神をもってぜひ日本の未来を切り開いていただきたいと切に願います。

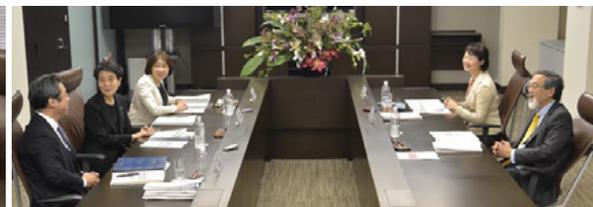
[選考委員]

大日向 雅美

恵泉女学園大学学長



女性研究者を取り巻く環境、とりわけ子育てと研究の両立は依然困難なままですが、一方で、そうした困難に立ち向かう女性研究者の気構えはここ数年で大きく変わったように感じます。日本人にあまり馴染みのないフィールドにも恐れず踏み込むなど、まず研究そのものがダイナミックになりました。同時に研究に取り組む姿勢が非常に辛抱強さを増しています。単にデータを取って分析するだけでなく、長期間にわたって対象に寄り添う地道さが印象的です。今回受賞されたのは、まさにそうしたダイナミックさと辛抱強さを兼ね備えた方々です。「女性の活躍」を求める風潮が強まっている昨今ですが、その良きモデルを自らの研究活動を通じて力強く体現されている女性研究者の活躍をたいへん頼もしく思います。



[選考委員]

奥山 千鶴子

認定NPO法人
びーのびーの理事長



今回も200を超える団体にご応募いただきました。地域の資源や特色を上手に生かしつつ、支援の手が十分に行き届いていないところで地道に活動を続けてこられた多様な団体を選ぶことができ、たいへん有意義な選考になりました。国を挙げて人種や性別、障がいの有無などによって差別されることのない社会を目指すなか、子育て支援の分野においても同様に、ダイバーシティやバリアフリーの視点が必要とされています。その意味でも、日本に暮らす外国人家族を支える活動に代表されるような、これまで置き去りにされがちだった課題を解決するため尽力しておられる方々の取組みが印象的でした。受賞された皆さまの着眼点の素晴らしさと志の高さにあらためて敬意を表したいと思います。

[選考委員]

高田 幸徳

住友生命保険相互会社
執行役常務



子育て支援活動の表彰部門では、子育てを取り巻く社会的課題にさまざまな工夫を凝らした支援を実践されていました。長年活動に取り組まれている団体だけでなく、活動年数の浅い、新しい子育て支援団体も多数見受けられたことが印象に残っており、子育て支援の多様な広がりをより一層感じました。

また、女性研究者の支援部門では、厳しい環境のなかでさまざまな研究を続けている様子をうかがうことができ、女性研究者の方々の力強さに心を打たれました。

今回第13回目となりますが、複数回応募いただいている方も多く見受けられ、本プロジェクトにかけるご期待の大きさを感ずる選考となり、手ごたえを感じております。本プロジェクトでの支援が、団体や女性研究者の皆さまの一層のご活躍につながることを願っております。

[選考委員]

米田 佐知子

子どもの未来サポートオフィス
代表



子育て支援や子どもの支援はこの20~30年で急速に広がった領域です。支援の制度やサービスが整えられ、広く利用されることはたいへん素晴らしいことだと思います。一方でそれらに頼るばかりでなく、子どもたちを見守り育てる地域のつながりを育てること、また新たに必要な仕組みを自分たちの手でつくり出す意識を持ち、参加と協力の力で地域社会を変えていく、その姿を子どもたちに示していくことも大切だと最近強く感じます。今年は確かな実績をもつ団体はもとより、活動歴の浅い団体にも数多くご応募いただきました。自らの活動を通じて応援の輪を広げていこうとする前向きな姿勢に大きな希望を感じました。こうした気概と行動力を持った団体にぜひ長く活躍していただき、子育て支援の輪を各地に広げてもらうことを期待しています。



受賞団体のご紹介

スミセイ未来大賞
文部科学大臣賞

特定非営利活動法人
浜松外国人子ども教育支援協会



P8

スミセイ未来大賞
厚生労働大臣賞

特定非営利活動法人
子育てネットくすくす



P9

スミセイ未来賞

特定非営利活動法人
Akitaコドモの森



P10

スミセイ未来賞

特定非営利活動法人
明日のたね



P10

スミセイ未来賞

特定非営利活動法人
ABCジャパン



P11

スミセイ未来賞

特定非営利活動法人
SA子ども活動塾



P11

スマセイ未来賞

特定非営利活動法人
MCサポートセンター



P12

スマセイ未来賞

特定非営利活動法人
芸術家と子どもたち



P12

スマセイ未来賞

特定非営利活動法人
飛騨高山わらべうたの会



P13

スマセイ未来賞

認定特定非営利活動法人
フードバンク山梨



P13

スマセイ未来賞

認定NPO法人
プール・ボランティア



P14

スマセイ未来賞

NPO法人
福島SAND-STORY



P14



スミセイ未来大賞・文部科学大臣賞



特定非営利活動法人 浜松外国人子ども教育支援協会

静岡県浜松市 代表者：田中 恵子

活動開始年月：1991年4月
スタッフ数：正会員71名 賛助会員 14名
〒430-0846 静岡県浜松市南区白羽町2512
浜松市立砂丘小学校内
TEL.053-443-8527

日本語・学習支援と母語支援の両輪で、 外国につながる子どもたちの今と未来、「生きる力」をサポート

外国につながる子どもたちのために

浜松市には30カ国以上の外国の子どもたちが暮らしています。外国人の定住化・永住化が進む一方で、言葉や文化の違いから、学校生活を円滑に送れない子どもたちが増え、地域の大きな課題となっていました。私たちは、そうした子どもたちのために、日本語教育の研鑽を積んだスタッフを各学校に派遣し、教師と連携してサポートチームを作ることで、学校ごとの事情に即した、きめ細かい支援を行っています。

日本語の習得とともに母語支援にも注力

母語が不十分な子どもと、日本語が苦手な保護者。家庭内断絶のケースも少なくない現状を憂い、私たちは活動開始当初から、日本語に加えて母語支援にも力を注いできました。言葉が通じなければ、子どもの進路や悩みなど、親子で話し合うことはできません。また、母国文化の継承・理解を通じて、子どもたちは自身のルーツを見つめ、アイデンティティを形成していきます。そういった観点からも、日本語と母語の両輪による支援が欠かせないと考えています。

地域に根ざす長年の取組み

私たちが開発した日本語指導教材は県内外の学校や支援の場でも広く使用され、母語教室は、子育ての悩みを母語で気軽に相談できる場としても地域に定着しています。「日本の子どもたち」と「外国につながる子どもたち」が手を携え、ともに活躍できる国際都市をめざし、これからも、より良い子育て環境づくりに取り組んでいきたいと思ひます。

受賞 の 言葉

このたびの受賞は、当団体(通称:TOMO2)の精神的な活力となります。活動の幅を広げていく上でのエネルギーともなり、心より感謝申し上げます。国籍を問わず、すべての子どもたちが輝くために、子どもたちの教育環境に心を寄せ、保護者を巻き込み、就学前の幼児教育・家庭教育へも更なる支援活動を続けてまいります。



スミセイ未来大賞・厚生労働大臣賞



特定非営利活動法人 子育てネットくすくす

香川県善通寺市 代表者:草薙 めぐみ/間島 いずみ

活動開始年月:2002年3月

スタッフ数 :55名

〒765-0031 香川県善通寺市金蔵寺町1044-2

TEL.0877-64-0580

ホームページ <http://www.k-kusu.com/>

近隣の大学生やシニアのボランティアなど、
地域の力を結集、地域が必要とする総合的な子育て支援活動の展開と模索

協働で支える転出入の多い地方都市の子育て支援

自衛隊駐屯地・警察学校・農業試験場など、公的機関の多い香川県善通寺市は転勤等による住民の転出入が激しい傾向にあります。そのため、住民同士のつながりが希薄となり、子育て家庭が孤立してしまうケースも少なくありません。「子育てに必要なサービスは自らの手でつくりたい」と考える私たちは、行政や地域の協力を得て子育てひろばの運営や障がい児の通所支援、多機関との連携による相談事業など、多彩な子育て活動に取り組んでいます。

組織としての持続性・安定性を高めるために

多岐にわたる活動には、大学生やシニアをはじめ多くのボランティアが参加しています。子育て支援活動を継続的に行っていくためには地域の方々の協力が不可欠です。多様な人が関わり、ともに支え合う子育て支援を行っている点は、私たちの活動の大きな強みといえます。また、専従スタッフとしても長く安心して働き続けられる環境づくりにより、「働く場」として整えることで、組織の持続・安定性の向上にも力を注いでいます。

一つひとつの支援を積み重ねてきた結果として

子育てを取り巻くさまざまな課題に直面し、その都度ご家庭に寄り添い真摯に向き合ってきたなかで、私たちの活動は現在のように大きな広がりを持つようになりました。しかし、ここがゴールではありません。これからも当事者性と次世代育成の視点を忘れずに、多くの人を巻き込みながら、地域全体で子育てを支えることのできるまちづくりをめざしていききたいと思えます。

受賞 の 言葉

子どもたちの幸せを願ってともに支え合い学びあう活動を日々積み重ねてきました。このたびの栄えある受賞を励みに、これからも地域の方々にご理解・ご協力いただきながら、障がいのあるなしに関わらず親同士が協力して子育てを応援するまちづくりに取り組んでまいります。



スミセイ未来賞



特定非営利活動法人 Akita子どもの森

秋田県秋田市 代表者：小玉 朋子

活動開始年月：2007年5月

スタッフ数：11名

〒010-0821 秋田県秋田市濁川字菅場6-64

TEL.018-827-6465

**法人として秋田ならではの野外体験事業と木育事業を展開
森のようちえんもこども園として認められ活動中**

森のなかで自然遊びの楽しさを伝える「森のようちえん」や地元の名産・秋田杉を使った木製品づくりのワークショップなど、地域の資源を有効活用した秋田ならではの子育て支援活動を行っています。豊かな自然に触れる機会を求める親子の声が増えるなか、今後は森のようちえん指導者の育成と普及を通じて、県内すべての幼児保育施設で子どもたちが野外活動を楽しめるような環境を整えていきたいと思っています。

受賞
言葉

子どもたちの将来の姿を信じ、地方の未来のためにママたちが作り上げ取り組んできた活動です。それが評価されたことが大変うれしく、今後の自信へとつながりました。これからもより良い未来のために、さまざまな課題に真摯に向き合い、取り組んでいく、そんな大人の背中を子どもたちに見せていきたいと思っています。



特定非営利活動法人 明日のたね

山形県鶴岡市 代表者：伊藤 和美

活動開始年月：2013年4月

スタッフ数：4名

〒999-7621 山形県鶴岡市長沼字宮前163

TEL.0235-64-8623

**子育てを核とした多様な活動を通じた、
地域の人と人をつなぐ橋渡し**

人口減少やSNSの普及による人間関係の希薄化に伴いコミュニティの持つ大切な役割が失われつつあるなか、私たちは世代を超えてみんなが笑顔で暮らせる地域をめざし、子育てを通じてコミュニティをつくる多様な活動を展開しています。子育て世代のための居場所づくりをはじめ、郷土食を介した多世代交流や親子のための防災教室、日帰り温泉でのお風呂託児など新たな活動にも積極的に挑戦し、人と人のつながりの輪を広げています。

受賞
言葉

にっちもさっちもいわず悩みながら子育てする母親3人が、ニッチを察知する子育て支援活動を始めて7年。子育て×地域の新しいコミュニティが生まれ、支え合える社会を自分たちで日々作っていくことに幸せを感じます。多くの人に支えられ活動が成り立っています。この受賞を、仲間と協力・応援者の皆さまに感謝いたします。



特定非営利活動法人 ABCジャパン

神奈川県横浜市 代表者：安富祖 美智江

活動開始年月：2000年10月

スタッフ数：15名

〒230-0051 神奈川県横浜市鶴見区鶴見中央1-4-3 共同ビル5F

TEL.045-550-3455

外国につながる子どもたちの進学を後押しする フリースクールや放課後教室の開催

言葉の壁や教育制度の違いもあり、外国につながる子どもたちを取り巻く教育環境は非常に厳しく、進学をあきらめたり学校になじめず不登校や退学になってしまうケースも少なくありません。私たちのフリースクールでは高校進学を目標に掲げ、これまでに200名以上の生徒をサポートしてきました。後輩たちの指導に加わってくれるスクールの卒業生もあり、地域のなかで支援の輪が広がる好循環も生まれています。

受賞の言葉

素晴らしい賞をありがとうございました。私たちは外国人コミュニティに身を置く当事者として、多くの方々からの助けを受けながら、多文化共生社会を目指してさまざまな取り組みを行ってきました。これからも、外国につながる子どもたちが、生き生きと自分の将来を語れるような社会を作っていくために活動していきたいと思います。



特定非営利活動法人 SA子ども活動塾

大阪府吹田市 代表者：小川 忠夫

活動開始年月：2014年4月（おもちゃ学校の活動開始年月）

スタッフ数：20名

〒564-0004 大阪府吹田市原町3-7-2

TEL.06-6388-3380

子どもたちにおもちゃづくりを伝える活動と その指導者を育成する活動を運営

自らの頭で考え、自らの手でつくることの楽しさを、おもちゃづくりを通じて体験してもらう「子ども工作教室」を開いています。昨今はアナログなおもちゃづくりを子どもたちに教えることのできる人材も減っているため、大人を対象にした「おもちゃ学校」を運営し、指導者の育成に力を入れています。過去5年間で150名が卒業しましたが、その多くが新たに教室を受け持ち、子どもたちの笑顔のために活躍しています。

受賞の言葉

このたび受賞の一報を受け、5年間の地道な活動が認められたことに、スタッフ一同とともに喜んでいきます。高齢者がおもちゃ学校で学び、技能を習得し子どもたちに物づくりの楽しさを教える活動は、子どもたちの健全育成のためと高齢者自身の生きがいにもつながる活動です。今後とも広い地域に活動を展開させていきたいと思っています。



スミセイ未来賞



特定非営利活動法人 MCサポートセンター

三重県桑名市 代表者：松岡 典子

活動開始年月：1999年12月

スタッフ数：23名

〒511-0851 三重県桑名市西別所302

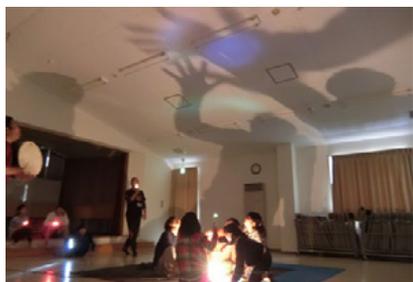
TEL.0594-21-4935

**母と子の笑顔のために、子育てに関わる専門職が
地域連携を基にした年中無休の切れ目のないサポートをしています**

設立以来20年以上にわたり、多様化する現代の子育てを養育者に寄り添いながらサポートを続けてきました。子育てに関する電話相談や講座の実施をはじめ、0日目の虐待死予防を目的とした「予期しない妊娠の専門相談」や精神的な課題を抱えた母親への支援に至るまで多岐にわたります。医療・保健・福祉の垣根を超えた専門的かつ切れ目のない支援が私たちの活動の特徴であり、行政機関のみならず多機関連携をもとに支援をしています。

受賞
の
言葉

今回大変名誉な賞をいただき心より感謝申し上げます。我々の活動は行政・医療・福祉等の関係機関の方々の適切なネットワークがあってこそ成立するものです。今まで活動を支えてくれた会員のみならず関係機関の方々とも喜びを分かち合いたいと思います。今後も母やその家族に寄り添い活動してまいります。



特定非営利活動法人 芸術家と子どもたち

東京都豊島区 代表者：堤 康彦

活動開始年月：1999年10月

スタッフ数：9名

〒171-0031 東京都豊島区目白5-24-12 旧真和中学校4F

TEL.03-5906-5705

**子どもたちとアーティストの出会いを通じて、
創造的な学び・遊びの機会をつくり、子どもたちの育ちを支援する活動**

プロのアーティストを学校や児童養護施設などに派遣し、表現やコミュニケーションに関するワークショップを開催しています。ダンス、演劇、音楽、美術といった創作性の高いアートには、創り上げる過程で想像力や表現力を刺激し、子どもたちの潜在能力を大きく引き出す力があります。アートとふれあう機会を日常的に提供することで、子どもたちの人間形成や自己肯定感の向上につながっています。

受賞
の
言葉

アーティストは既存の価値観にとらわれず、新しい表現やものの見方を大切にします。彼らは子どもと相性が良く、特に、障がいがあったり、虐待経験から心に傷を抱えていたり、生きづらさを感じている子どもに寄り添い、表現を引き出します。受賞を励みに今後も教育、福祉、文化等の枠を越え、地道に活動していきたいと思っています。



特定非営利活動法人 飛騨高山わらべうたの会

岐阜県高山市 代表者：岩塚 久案子

活動開始年月：2007年6月

スタッフ数：27名

〒506-0031 岐阜県高山市西之一色町3-820-1
飛騨高山森のエコハウス内 TEL.0577-57-8577

飛騨地方に伝わるわらべ歌を集め、 親子の居場所づくりや多世代交流に生かす

わらべ歌を介して赤ちゃんから高齢者までが交流しながら楽しめるひろばを定期的で開催しています。歌と遊びを通じてスキンシップが図れるわらべ歌は、子育てにぴったりだと考えています。高山市は日本一面積が広く、遠方に住むためひろばに通えない親子も少なくありません。そこで依頼に応じてスタッフが現地に赴く出張型のイベント「親子で楽しむワイワイカフェ」という取組みも新たに始めました。

受賞 の 言葉

このたびは「未来賞」という素晴らしい賞をいただき、本当にありがとうございます。地域ぐるみで子育て親子を見守り、寄り添う、かつての日本に見られた子育て環境を再構築していきたいと、この活動を続けてまいりました。受賞の喜びと感激を胸に、子どもたちと地域の皆さまの笑顔あふれる未来を創っていけるよう、一層頑張ります！



認定特定非営利活動法人 フードバンク山梨

山梨県南アルプス市 代表者：米山 けい子

活動開始年月：2008年10月

スタッフ数：10名

〒400-0214 山梨県南アルプス市百々3697-2
TEL.055-298-4844

フードバンク活動を通じて、地域のステークホルダーと共に 子どもの貧困対策に取り組む

市民や企業から寄付された食品を生活困窮世帯や児童養護施設などに無償で届ける活動を行っています。全国に先駆けて「フードバンク子ども支援プロジェクト」を始めるなど、地元行政や学校と連携して、子どもの貧困対策に力を入れているところが当団体の特徴です。また、フードバンク活動だけにとどまらず、学習支援や居場所づくりも担い、子どもを取り巻く諸問題の解決にさまざまな角度から取り組んでいます。

受賞 の 言葉

「すべては子どもたちのために」を合言葉に多くの支援者の皆様と共に活動してきました。このたびの受賞は、貧困に苦しむ多くの子どもたちへの受賞であり、「子どもの貧困」を社会に知ってもらえる機会となることを願っています。



スミセイ未来賞



認定NPO法人 プール・ボランティア

大阪府大阪市 代表者：岡崎 寛

活動開始年月：1999年5月

スタッフ数：職員2名 ボランティア170名

〒540-0034 大阪府大阪市中央区島町2-4-3 ヴィラ島町9F

TEL.06-4794-8299

**「水の世界もバリアフリーに!」を合言葉に、
障がい児の水泳をサポート**

障がい者専用プールではなく市民プールで、ボランティアがマンツーマンで障がい児の水泳指導を行っています。また、彼らが水泳を体験するためのプール専用車椅子や特殊浮き具の製作も手がけています。口コミで評判が伝わり、現在は毎週100名ほどの参加者がプールに通い水泳を楽しんでいます。周りから温かい言葉をかけていただけるようになるなど、活動に対する理解は確実に高まっており、手ごたえを感じています。

受賞
の
言葉

栄えある賞に選んでいただき、誠にありがとうございます。障がいがあっても市民プールで水泳を楽しみたいと思っている障がい児は全国にたくさんいます。東京オリンピック・パラリンピックを追い風にして、障がい児たちが気兼ねなく水泳を楽しめる社会環境になるよう活動を広めていきたいと思っています。



NPO法人 福島SAND-STORY

福島県福島市 代表者：笠間 浩幸

活動開始年月：2013年11月

スタッフ数：14名

〒960-8164 福島県福島市八木田字神明94

アド・プロダクション内 TEL.024-545-7779

**砂場の魅力を広く伝えることで、
福島の復興と子どもたちの健康づくりに貢献**

安全で良質な砂を使った砂場環境の整備やそのノウハウの提供、親子で砂遊びを楽しむ「砂の遊びとアート」プログラムの開催などに取り組んでいます。砂場には、年齢・性別・人数を問わず誰でも自由に遊ぶことができ、子どもたちや見守る大人同士の交流を生む効果もあります。そうした砂場の素晴らしさを、震災の影響により一時的に外遊びの機会を奪われた福島から発信することに大きな意義を感じています。

受賞
の
言葉

子どもたちの育ちにとって、砂の遊びがどれほど大切なものであったか…私たちは震災により思い知らされました。受賞に深く感謝するとともに、豊かな子育て・子育て環境をつなげていけるよう、今後も「砂場から」取り組んでいきたいと思っています。“取り戻し”を超えた積極的な未来づくりとして。一度は失いかけた福島だからこそ。



スミセイ女性研究者奨励賞

大平 和希子

東京大学大学院 総合文化研究科

研究テーマ

資源国において伝統的権威が果たす役割 ——ウガンダ西部ブニョロ王国を事例に——



内容 本研究は、ウガンダ西部のブニョロ王国を事例に、伝統的権威が文化保全という役割を超え、ガバナンスを担う一主体と承認されるに至った過程に着目し、伝統的権威と国家の関係性、伝統的権威と住民の関係性を分析することで、伝統的権威をアフリカ国家論の中に再編する試みである。本研究を足がかりに、一国の中で得た着想からサブサハラ・アフリカ全体の伝統的権威への一般化を試みることで、比較政治研究へと発展させたい。

受賞
の
言葉

博士課程での勉学を開始して、すぐに子どもを授かりました。そこから3年、大学からは離れた田舎で子育てをしながら、夫と子どもと二人三脚で研究を進めてきました。研究と子育てのバランスが上手く取れずに悩むこともありますが、スミセイ女性研究者奨励賞に選んでいただいたことを励みに、まずは博士論文の完成を目指して、より一層研究に進進します。

桂ノ口 結衣

大阪大学大学院 文学研究科

研究テーマ

「子どもの哲学(P4C)」における 哲学的事例検討の手法と有効性 ——実施例の質的調査を通じて——



内容 対話を通じ子どもと共に哲学を実践する子どもの哲学(P4C)について、哲学的視座からの事例検討が実践者の質の向上に有効であることを論証し、哲学的事例検討の体制整備の必要性を文献調査とインタビュー調査に基づき主張する。文献研究にとどまらずに、「P4C」の手法などを理論的にまとめ、ワークショップなどの実践、国内外の先進的な事例収集によって研究を深め、哲学対話の課題と展望を示していきたい。

受賞
の
言葉

研究と育児でもがく日々のなかで、女性であることや子どもがいること、院生であることやひとり親であることなどを、「痛手」として突きつけられてしまう時もあります。今回の受賞は、こうした自分の前提的部分をあらためて抱えなおすことを支え、また一歩進んでみる力をくださいました。心より感謝し、誇りに思います。

女性研究者への支援



スミセイ女性研究者奨励賞

鎌田 依里

京都大学大学院 教育学研究科

研究テーマ

**難病や慢性の病を抱えて生きるとは何かを考える
——生きることと死ぬことの意味——**



内容 膠原病という難病を抱えて生きるひとの語りから、臨床心理学的な観点で、命、そして生きるとは何か、病を抱えて生きるとは何かを再考する。当事者だけでなく、遺されるひとたちや、その方の支援を続けている医療従事者へも、生きること、死ぬことは何かを問うことは必要なことである。心理臨床家としてひとのところに寄り添い、難病を抱えていても自分らしく生きたいと願うひとたちの一助となる、より良い支援のあり方を考察したい。

受賞
の
言
葉

育児と学業と仕事で、私は日々を懸命に慌ただしく過ごしていました。このたびの受賞で、自分に自信を持つことができ、子どもとの時間や日々の臨床等すべてのことに丁寧に取り組む心のゆとりが生まれました。本当にありがとうございます。意義のある研究にするとともに、子どもの知育と徳育を楽しみます。

亀田 真澄

マサチューセッツ工科大学 比較メディア研究科

研究テーマ

**映画作品による共感の創出
——アメリカとソ連を中心に——**



内容 「共感」は人々をつなぎ、心を癒す働きを持つ一方で、他者の排除や戦争への合意形成のためのプロパガンダに利用されてきた。本研究は、どのような撮影・編集技法の登場によって、また、どのような時代的要請によって、映画が共感を創出するメディアとなったかを検討するものだ。特に1930年代の米国とソ連の映画制作に焦点をあてて、共感の表現を分析することによって、共感がいかに「作られてきた」のかを明らかにしたい。

受賞
の
言
葉

2歳児と0歳児の双子を自宅で育てています。大抵、だれか一人は泣いているし、三人揃っての大合唱となると、考え事も吹き飛んでしまいます。そんな日々のなかで研究からは少し離れてしまっていますが、今後は本助成をいただけたことを生かし、研究と育児を、どちらかを犠牲にするのではない形で両立していきたいです。

グリゴレ イリナ

東京大学大学院 総合文化研究科

研究テーマ

映像インスタレーションによる 東北・関東の伝統芸能と前衛舞踊の 文化人類学的研究



内容 伝統芸能の場では、女性と子どもたちが参加する事例が増えている。本研究では、映像インスタレーションを用いながら、獅子舞の伝承者が活動するきっかけとなった、幼少時に初めて獅子舞を見た瞬間のイメージをよみがえらせることで、伝統芸能を観る契機が減少している次世代の子どもたちに「オドリ」のイメージ化を促し、新たな民族的映像の可能性を開拓する。同時に、女性前衛ダンサーの身体技法に関して、イメージが踊りに還元されるプロセスについて映像人類学的に調査する。

賞
の
葉
言

出産を機に休学し、育児をしていましたが、他の誰とも会えず、言葉も交わせない日が続きました。外国人・女性であることに苦労もたくさんありましたが、それらを乗り越えて二人の娘のお手本でありたいです。受賞にあたって、研究を続けられる機会をいただいたことに感謝し、同じ思いを抱く女性の励みになれるよう、成果を上げたいと思います。

津田 久美子

北海道大学大学院 法学研究科

研究テーマ

国際課税協力における日本の対外的影響力



内容 国際課税協力は、タックス・ヘイブンなどを利用した租税回避行動が政治問題化されたことを背景に、近年急速に取組みが進んでいる。本研究では、ヒト、モノ、カネが国境を越えて飛び交うグローバル化時代の国際課税協力の実態を解明し、新しいあり方を再考したい。特に、OECDやG20の議長国を通じて国際課税の議論に貢献してきた日本の役割に注目し、国際課税協力の分野における日本の対外的な影響力を究明することを目的とする。

賞
の
葉
言

栄えある賞をいただきまして、心よりお礼申し上げます。日々生き生きと成長する子どもにとって、私も一緒に成長していける親でありたい、やりがいのある研究を続ける姿を見せることができたら、という思いを抱いております。今回のご支援を受け、女性、母親、研究者として少しでも社会に貢献していけるよう努力してまいります。



スミセイ女性研究者奨励賞

ハナ キンレイ
華 金玲

慶應義塾大学 総合政策学部 非常勤講師

研究テーマ

中国情報通信メディアの利用と デジタル社会の持続的発展



内容 2000年代、日本で安価に入手できていた携帯電話は、中国、特に未発達地域では非常に高価なものだった。通信は、ユニバーサルサービスとして基本的なサービスや情報への自由・平等・安価なアクセスを保証すべく、社会的平等を果たすためには、「誰もが使える」要素が最も重要とされる。本研究では、過去10年程度の中国大連での情報通信の状況を調査し、都市部と農村部での変化を比較しながら、中国デジタル社会の健全な発展を考える。

受
賞
の
葉

助成対象に選んでいただき心から深く感謝しています。日本社会の底流を成す社会的平等性の視点が最も重要となる中国通信産業の研究をしています。この支援は、子育てと研究の狭間からようやく見えた希望の光です。今回、私は大きく勇気づけられました。この受賞を誇りに、一人前の研究者になるまで明るく頑張りたいと思います。

藤澤 綾乃

慶應義塾大学大学院 文学研究科

研究テーマ

古代末期パレスチナのキリスト教化と その社会に関する考古学的研究



内容 本研究は、古代末期パレスチナ地域におけるキリスト教信仰の社会的・宗教的位置づけを考古学的に解明することが目的である。具体的には、教会堂・修道院遺構の地理的分布、建物型式などを自身のフィールドワークの成果も踏まえながら検討し、さらに、キリスト教遺構と他の宗教遺構の変遷を時空間的に比較検討することを目指す。本研究では、可能な限り客観的なデータを提示し、あらゆる宗教が織り成す複雑な社会の理解につなげたい。

受
賞
の
葉

このたびは、名誉ある賞をいただきありがとうございます。研究者としてどう在るべきか、ということについて不安や焦りは尽きませんが、本受賞は大きな前進となりました。出産後は新しい発見の連続で、研究姿勢や考え方も大きく変わってきたように思います。家族や周りの方々への感謝の念を常に持ち、一層研究に邁進してまいります。

松井 有美

大阪大学大学院 法学研究科

研究テーマ

新時代の労働組合法上の「使用者」 ——超企業的社會における 労働組合法上の使用者概念の再構築——



内容 労働法学では、これまで企業別組合に相対する企業を「使用者」とする議論が中心であった。他方で、働き方・企業のあり方が多様化する現代社会では、超企業的に多種多様な労働者を組織する合同労組（コミュニティ・ユニオン）が注目される。本研究は、現代における合同労組の組織的特徴や活動実態などを手掛かりに、労働組合法上の「使用者」概念を、複数の意味を持つものとして再構築することを目的とする。

賞 の 葉

スミセイ女性研究者奨励賞に選定していただき、心より御礼申し上げます。研究者としての将来性等も含めて評価していただけたことは、大変うれしく、また、そのことの重みに身の引き締まる思いです。子育てと研究を両立し、研究成果を挙げると共に、両立を目指す研究者のロールモデルとなれるよう邁進してまいります。

三浦 純子

東京大学大学院 総合文化研究科

研究テーマ

日本の移民受け入れの将来と人道支援の可能性 ——在日外国人と難民のエスノグラフィ——



内容 日本は家族単位を中心に難民を受け入れる、第三国定住制度を導入している。難民キャンプ等から来日し、日本で生活を開始した難民たちは語学や文化の壁に当たり、先進国にしながら人間の安全保障が脅かされている人々がいる。本研究では、日本という外国で子育てをしながら自立を目指す難民及び外国人の視点に向き合い、記述していくことを目的とし、最終的には日本の外国人受け入れの将来と人道支援の可能性を探っていきたい。

賞 の 葉

子宝に恵まれたことに感謝しつつも、妊娠中の長期入院と育児の大変さに研究も大学の非常勤講師もやめなければならない状況となりました。子育ての苦勞を知るほどに、子連れで故郷を追われる難民に思いを馳せ、諦めかけた研究の再出発を覚悟しました。このたびの受賞は、背中を押されたようで心強く、感謝の気持ちで一杯です。